

推薦書の記載内容と任意提出書類等との関連性の検討

石井秀宗, 橘 春菜, 永野拓矢 (名古屋大学)

本研究では、多面的・総合的評価における諸書類の有効な活用を目的として、推薦書及び任意提出書類のキーワード選択、推薦理由、任意提出書類の関連性等について分析した。その結果、次のことが示唆された。(1) 推薦理由とキーワードについて、クラブ活動・代表委員・生活習慣から「リーダーシップ」や「責任感」、成績や表彰・特技から「探究心」や「表現力」、学術的関心から「独創性」や「洞察力」を選択するという3つの見方がある。(2) 推薦理由と任意提出書類について、語学力、課外活動、社会的活動については、その証左として任意提出書類が提出される傾向がある。(3) 調査書平均点について、センター試験総点よりも代表委員経験や責任感と関連している傾向が見られる。

1 問題と目的

大学入試の多様化が進められて以降、各大学で様々な形態の入試が導入・実施されている。平成28年3月に高大接続システム改革会議が出した最終報告書(文部科学省, 2016a)では、受験者の多面的な情報を得るために、入学希望者が記載する書類の多様化・充実化が求められている。また、同年8月に出された高大接続改革の進捗状況においても(文部科学省, 2016b)、各大学の個別試験において、学力のみならず、多面的・総合的に評価をするように入学者選抜改革を進めることが、方向性として示されている。A大学でも、志願者が任意で提出できる書類(以下、「任意提出書類」)を学部(学科)ごとに定め、志願理由書、推薦書とともに、それらも選抜資料として提出できるようにしている。

入学者選抜において、諸書類をどのように評価・活用するかということから、書類のあり方について遡って考えてみると、書類からどのような情報を得たいか、書類にどのようなことについて書いてほしいかを事前に明確にしておくこと、また、実際の書類にどのようなことが書かれるかを整理・把握しておかなければならないことに気づく。これに関する先行研究として、山本(2016)は、AO入試における自己推薦書または活動記録書のタイプとして、リーダーシップ、表彰、外国語、創作・資格、部活動、ボランティア、生徒会・委員会等の項目を指定し、学校内外での活動の実績やそのプロセスの情報を求めるものがあることを示している。井上他(2016)は、活動報告書の類型として、「意欲的に取り組んだ活動」「課題研究」「資格・検定等」の3つを構成し、『知識・理解、思考力・判断力・表現力』と『主体性・多様性・協働性等の情意領域』という2つの観点から評価することを報告している。また、木村(2011)は、出願時期が早

期になればなるほど、志望理由や自己アピールだけでなく、課題レポートやプレゼン説明、将来像/職業観などの文書を提出させる傾向にあることを明らかにしている。

これらの先行研究により、書類の種類や記載内容の分類については、一定程度以上解明されたと考えられるが、評価観点(キーワード)と推薦理由の関係や、推薦理由と任意提出書類の関係など、書類間の関連性については、明らかにされていない部分が残っている。多面的・総合的評価において諸書類を有効に活用するためには、書類間の関連性についても理解しておくことが必要である。例えば、各事項への言及の有無を考慮に入れて評価するとした場合、連動して記載される傾向にある事項を書いた受験者ほど、高評価になりやすくなるという可能性がある。

そこで本研究では、多面的・総合的評価における諸書類の有効な活用に資することを目的として、A大学B学部の平成X年度推薦入試に、志願書類として提出された推薦書および任意提出書類を対象に、キーワード選択、推薦理由、任意提出書類の関連性等について分析する。

同学部の推薦入試は、平成X-1年度まではセンター試験を課さない入試であった。しかし、高等学校側の要望、志願者数の低迷、数学または数量的な力の不足、受験機会の複数化等の理由により、平成X年度入試からセンター試験を課す入試に切り替えた。その際、推薦書の構成を大幅に変更するとともに、前述したように、任意提出書類の提出を可能とした。それゆえ本研究では、特にこの2つの書類(推薦書、任意提出書類)に着目して分析を行うことにする。まず次節において、推薦入試の概要と提出書類について説明する。その後、志願状況、キーワード選択、推薦理由の分類、任意提出書類の提出状況、キーワードと推薦

理由の関係、推薦理由と任意提出書類の関係等について分析を進める。また、調査書平均点や、センター試験総点との関連についても検討する。

2 推薦入試の概要

2.1 入試の目的と選抜方法

平成 X 年度から、A 大学 B 学部の推薦入試は、センター試験を課す推薦入試に替わった。この入試のアドミッションポリシーとして、募集要項には、「広い視野と深い洞察力、考察力、論理的思考力、表現力、実践力を有し、人間の成長発達と教育をめぐる課題に深い関心をいだき、教育学と心理学に対する勉学の熱意と意欲を持ち、学業・人物ともに優れている者を選抜する」と書かれている。

選抜は、1 月下旬から 2 月初旬にかけて、第 1 次選考と第 2 次選考により行われる。募集定員は 10 名である。

第 1 次選考はセンター試験の成績を含む書類選考で、志願理由書、推薦書、調査書、任意提出書類、及び、大学入試センター試験の成績に基づいて行われる。センター試験で課す教科科目は一般入試と同じであり、5 または 6 教科 8 科目である。

第 2 次選考は、第 1 次選考合格者に対し、筆記試験と面接試験を課すことにより行われる。

筆記試験は、「現代社会の諸問題のうち最も解決が困難だと考えるものをひとつ取りあげ、この問題への対処方を論じなさい。」のような課題を与え小論文を書かせる試験で、試験時間は 90 分である。

面接試験は、出願時に提出した書類と、筆記試験で作成した小論文に基づいて行われる。複数教員による 20 分程度の個別面接が、各受験者に対して 2 回実施される。試験結果を総合的に判断して合格者を決定する。

2.2 提出書類について

推薦入試志願者は、出願時に、志願者本人が自筆した志願理由書、学校長からの推薦書（ワープロ可）、及び調査書を提出する。さらに、任意に提出を求める書類に該当するものがあれば、その書類を提出することができる。

志願理由書には、同学部でどのようなことを学びたいか、また卒業後、それをどのように活かしたいかを 1,000 字程度で具体的に書く。

推薦書は、志願者の人物像について、学級担任など責任ある者が作成する。記載内容は、(1) 志願者において特に優れているものを、次のキーワード「思考力、

独創性、探究心、主体性、忍耐力、表現力、想像力、多様性、洞察力、協働性、責任感、社交性、判断力、リーダーシップ」の中から 3 つまで選び、そのように判断される理由（推薦理由。200～500 字程度）と、(2) その他特記すべき点（特記事項。50～200 字程度）である。

調査書は、通常の手紙にしたがって、学習の記録、特別活動の記録など、高等学校における活動を記録したものである。

任意で提出を求める書類について、同学部では、(1) 本学部のアドミッションポリシーに合致する活動、あるいは達成事項等で、特筆すべきものについて志願者が A4 用紙 1 枚にまとめた書類、(2) ボランティア活動など社会貢献活動の実績を証明する書類、(3) スーパーグローバルハイスクール (SGH)、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) に指定されている学校において、SGH もしくは SSH に関連した特筆すべき活動や得たことを志願者が A4 用紙 1 枚にまとめた書類、(4) グローバルサイエンスキャンパス (GSC) における活動等について志願者が A4 用紙 1 枚にまとめた書類、(5) 外国語に関する高い語学力を証明する書類 (TOEFL、英検、IELTS、TestDaf、DALF、HSK 等)、(6) 海外研修又は留学の事実を証明する書類、(7) 国際バカロレアのスコア、としている。

任意提出書類の提出にあたっては、志願者情報の他、提出書類名 (7 件まで) と、各書類の枚数を記載した台紙に、すべての書類を貼付して提出させるようになっている。

3 分析¹⁾

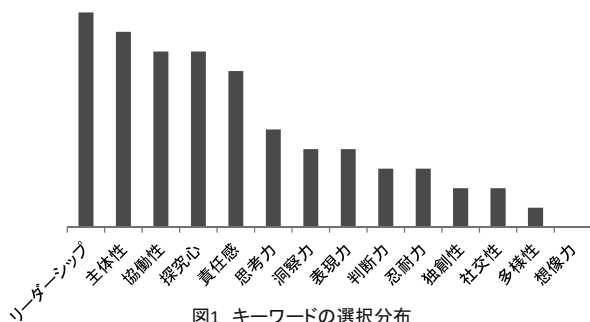
3.1 志願状況

10 名の募集定員に対し 24 名 (男性 9 名、女性 15 名) から出願があった (2.4 倍)。第 1 次選考で 23 名を第 1 次選考合格者とし、第 2 次選考で 10 名を合格とした。志願者の在籍する高等学校所在地は、愛知・岐阜・三重の東海 3 県で半数 (12 名) を占めていたが、関東、北陸、近畿以西からの出願もあった。また、推薦入試と一般入試の両方に出願する志願者も見られた。

3.2 キーワード選択

推薦書に挙げたキーワードのうち最も多く選択されたのは「リーダーシップ」であった。次いで「主体性」「協働性」「探究心」「責任感」と続いた。選択分布を図 1 に示す。

どのキーワードが同時に選ばれやすいか、または同時に選ばれにくいかを分析するため、各キーワードの選択状況を 2 値データにして相関係数を求めたところ、「探究心」と「責任感」、また、「探究心」と「リーダーシップ」の間に負の相関が見られた ($r = -0.55$, $r = -0.54$)。



3.3 推薦理由の分類と分布

24 名分の推薦書について、山本 (2016) や井上他 (2016) 等の先行研究を見ていない研究メンバーが精査し、推薦理由及び特記事項（以下、あわせて推薦理由と言う）に書かれている内容を分類した後、他のメンバーも加わって再検討したところ、推薦理由は、表 1 に示す 9 カテゴリーに分類できると判断された。

カテゴリ	内容例
語学力	留学、資格、会合参加
代表委員	生徒会、学級委員、実行委員
クラブ活動	キャプテン、部長、主要メンバー、まとめ役
関心	教育問題、心理的問題、進学希望、教員志望
課外活動	SGH、SSH、文化祭、コンクール
勉学	特待生、成績優秀
表彰特技	コンクール等での表彰、特技を生かした活動
社会的活動	ボランティア、地域貢献
生活習慣	皆勤、健康、規則正しい生活

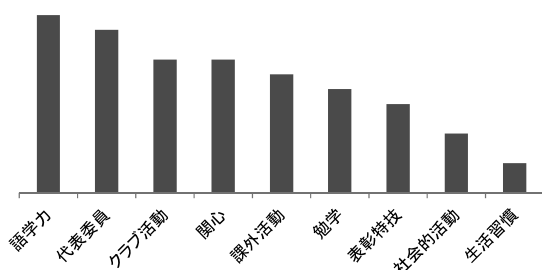


図2 推薦理由分布

各志願者の推薦書において、それぞれ何個の推薦理

由が書かれているかを調べた。ただし、同一カテゴリに属する複数の理由は、合わせて 1 個とした。その結果、推薦理由として書かれているカテゴリ数は 1~5 個の範囲に分布し、平均 2.8 個、標準偏差 1.0 個であった。推薦理由として多く挙げられたものは、多い順に、〈語学力〉〈代表委員〉〈クラブ活動〉〈関心〉〈課外活動²⁾〉であった。推薦理由の分布を図 2 に示す。

複数の推薦理由が挙げられた場合、どの理由が同時に挙げられやすいかを分析するため、キーワードと同様の相関分析を行った。その結果、〈表彰特技〉と〈社会的活動〉の間に正の相関 ($r = 0.52$)、また、〈表彰特技〉と〈関心〉の間に負の相関 ($r = -0.45$) が観察された。

3.4 任意提出書類の提出状況

任意に提出を求める書類を提出した志願者は 24 名中 15 名 (63%) であった。推薦書と同様に、山本 (2016) や井上他 (2016) 等の先行研究を見ていない研究メンバーが各書類を精査した後、他のメンバーも加わって再検討したところ、任意提出書類は、表 2 に示す 6 種類に分類できると判断された。

種類	内容例
語学資格	英検、TOEIC
課外活動	SGH、SSH
語学研修	成績証明書、留学証明書類
表彰特技	表彰状、資格取得証明書
社会的活動	ボランティア活動証明書、新聞記事
クラブ活動	クラブ活動証明書類

書類によってはコピーが提出されている。

任意提出書類を提出した志願者が、表 2 に示す 6 種類の中から何種類の書類を提出したか分布を調べた。ただし、同一カテゴリに属する複数の書類は、合わせて 1 種類とした。その結果、任意提出書類を提出した志願者が提出した任意提出書類の種類数は 1~4 種類の範囲に分布し、平均 1.5 種類、標準偏差 0.9 種類であった。

任意提出された書類の種類は、多い順位に、【語学資格】9 名、【課外活動】4 名、【語学研修】3 名、【表彰特技】3 名であった。

複数の書類が提出された場合、どの書類が同時に提出される傾向にあるかを分析したところ、【課外活動】と【社会的活動】の間に正の相関が見られた ($r = 0.67$)。

3.5 キーワードと推薦理由の関係

推薦書において、キーワード選択と推薦理由の関係を相関分析したところ、「リーダーシップ」と〈代表委員〉及び〈クラブ活動〉の間に正の相関が観察され（いずれも $r=0.50$ ）、「リーダーシップ」と〈勉学〉の間には負の相関が見られた（ $r=-0.41$ ）。

また、「探究心」と〈勉学〉の間に正の相関があり（ $r=0.45$ ）、「探究心」と〈代表委員〉の間には負の相関があった（ $r=-0.54$ ）。

「責任感」と〈生活習慣〉及び〈代表委員〉の間に正の相関が見られ（ $r=0.43$, $r=0.41$ ）、「責任感」と〈関心〉の間には負の相関が見られた（ $r=-0.55$ ）。

さらに、「主体性」と〈表彰特技〉の間に負の相関が観察された（ $r=-0.49$ ）。

3.6 推薦理由と任意提出書類の関係

推薦理由と任意提出書類の関連を相関分析したところ、推薦理由として〈課外活動〉〈社会的活動〉が挙げられている場合において、その根拠となる書類が提出されている傾向が見られた（ $r=0.60$ ）。また、〈語学力〉が挙げられている場合も、その根拠となる書類が提出されている傾向が見られた（ $r=0.50$ ）。

3.7 調査書平均点との関連

調査書に記載されている調査書平均点と諸変数との関連を検討したところ、キーワードの「責任感」、推薦理由の〈代表委員〉と正の相関（ $r=0.63$, $r=0.47$ ）、反対に、キーワードの「探究心」、推薦理由の〈関心〉と負の相関が見られた（ $r=-0.49$, $r=-0.43$ ）。

3.8 センター試験総点との関連

センター試験総点と諸変数との関連を検討したところ、調査書平均点との間に関連は見られなかった（ $r=0.00$ ）。また、推薦理由の〈社会的活動〉、任意提出書類の【社会的活動】や【表彰特技】と負の相関が見られた（ $r=-0.64$, $r=-0.46$, $r=-0.44$ ）。

4 考察

4.1 志願状況について

同学部の推薦入試でセンター試験を課すように変更した理由の 1 つとして、受験機会の複数化という狙いがあったが、従来のセンター試験を課さない推薦入試では、推薦入試と一般入試の併願者（推薦入試不

格者で一般入試に志願する者）がほぼいなかったのが、今回は併願者が複数いたことは、この目的にかなった入試制度の変更であったと考えることができる。

一方、別の理由として、志願者数（倍率）の確保があったが、前年度の 21 名（2.1 倍）より上昇したとはいえ、それほど大きく変化した訳ではなく、今後さらに志願者増を図る必要があると考えられた。

4.2 推薦書について

キーワードとして多く選択されたのは、「リーダーシップ」「協働性」「責任感」や「主体性」「探究心」等であり、逆に少なかったのは、「想像性」「独創性」や「多様性」「社交性」等であった。これは、類似する言葉であれば、「多様性」「社交性」よりは「協働性」や「リーダーシップ」、「想像性」「独創性」よりは「主体性」や「探究心」のほうが、キーワードとして適当だと判断されたためであると推察される。推薦書にどのようなキーワードを挙げておくべきか、アドミッションポリシーを考慮して、より適切なものに修正していく必要がある。

推薦理由の分類結果が、表 1 のように先行研究における分類と類似した結果になったことは、このようなカテゴリ分類に普遍性があることを示していると考えられる。今後、多少の修正は必要だろうが、基本的にはこのような分類で推薦理由を捉えていくことは、妥当なことであると考えられる。

推薦理由として〈代表委員〉を挙げる場合は、志願者において優れている点として「リーダーシップ」や「責任感」が選択され、「探究心」は選択されない傾向にある。反対に、推薦理由として〈勉学〉を挙げる場合は、志願者において優れている点として「探究心」が選択され、「リーダーシップ」は選択されない傾向にある。「リーダーシップ」を選択する場合は〈クラブ活動〉を理由に挙げる傾向もある。そして、キーワード選択として、「探究心」と「責任感」、また、「探究心」と「リーダーシップ」の間に負の相関が見られること、さらに、これらのキーワードの選択数が大きいことを考え合わせると、推薦書作成に当たって、代表委員やクラブ部長を務めることから「リーダーシップ」や「責任感」を挙げる見方と、成績が高いことから「探究心」を挙げる見方があることが推察される。

「責任感」について、〈生活習慣〉と正の関連があることは理解できるが、教育問題や心理的な問題への〈関心〉と負の相関があることは、アドミッションポリシーから考えても望ましくないと言える。しかしこ

の結果は、キーワードを3つまで選ぶという回答形式によると考えるのが適切である。²⁾〈関心〉がある志願者は「責任感」がないと見るよりは、〈関心〉がある志願者においては、他のより適切なキーワードが選択されると考えられるからである。先の、〈代表委員〉と「探究心」に負の関連が見られるのも、代表委員になる生徒は探究心がないのではなく、代表委員になる生徒にはより適切なキーワードが選択されていると解釈すべきである。

「主体性」と〈表彰特技〉の負の関係も、〈表彰特技〉がある志願者は「主体性」がないと見るのではなく、〈表彰特技〉を挙げる場合は、「表現力」や「探究心」を選択する傾向にあると解釈するのが適切である ($r=0.52$, $r=0.35$)。

〈関心〉は、「独創性」や「洞察力」と弱い正の相関が見られる ($r=0.39$, $r=0.35$)。これも、推薦書作成における1つの見方であろう。以上を整理すると図3のようになる。

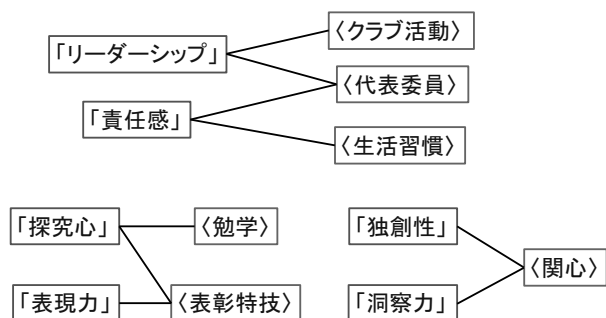


図3 キーワードと推薦理由の関係
「」はキーワード、〈〉は推薦理由。

4.3 任意提出書類について

任意提出書類としてもっとも多かったのは【語学資格】、具体的には英語能力の証明書であり、高校生において語学資格の取得が普及していることが確認される。

任意提出書類の種類は、【語学資格】【語学研修】【課外活動】【表彰特技】【社会的活動】【クラブ活動】のように分類することができ、これは推薦理由の分類に包含できるものであり、先行研究とも整合するものであった。よって、本研究で得られた推薦理由や任意提出書類のカテゴリ分けは、分類基準として妥当なものであると判断される。

推薦理由のうち任意提出書類に同じ分類カテゴリのある〈語学力〉〈課外活動〉〈表彰特技〉〈社会的活動〉〈クラブ活動〉については、根拠書類として任意

提出書類が提出されやすいと考えられる。実際、〈社会的活動〉〈課外活動〉〈語学力〉においては、そのような傾向が観察されている。推薦理由には他に、〈代表委員〉〈関心〉〈勉学〉〈生活習慣〉があるが、これらについては、調査書や志願理由書に、その証左を見出すことができる場合もある。推薦理由の中に、任意提出書類を提出しやすいものとそうでないものが存在し得るということは、アドミッション担当者は心得ておく必要があるであろう。

推薦理由と任意提出書類の関係をまとめると図4のようになる。

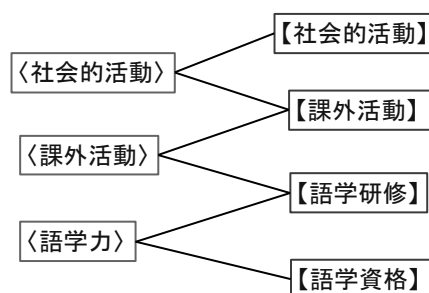


図4 推薦理由と任意提出書類の関係
〈〉は推薦理由、【】は任意提出書類。

4.4 調査書平均点およびセンター試験総点について

調査書平均点は、高等学校で学習する各教科の評定平均値を平均したものであり、センター試験総点と正の相関があっても良さそうであったが、実際にはそうでなかった。その理由として、調査書平均点及びセンター試験総点の分布の広がり小さいことが考えられるが、データ分布を見る限りそのようなことはなかった。別の理由として、調査書平均点には実技系教科の評定値が含まれていることも考えられるが、キーワードの「責任感」や推薦理由の〈代表委員〉と正の相関があったことを考えると、評定平均値は、責任感等の人物評価的要素も含んだ指標になっている可能性が伺える。

センター試験総点と、推薦理由の〈社会的活動〉、任意提出書類の【社会的活動】及び【表彰特技】の間に負の相関があったことから、センター試験総点が低めであった志願者ほど、学外での活動を強調する傾向にあることが推察される。これは、センター試験の成績に左右されずに、真に同学部で学びたい学生を求め、また、推薦入試と一般入試という2度のチャンスを活かしてほしいという呼びかけに呼応した志願ではないかと考えられる。

調査書平均点およびセンター試験に関してまとめると図 5 のようになる。

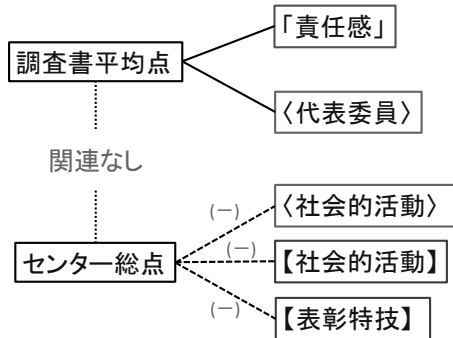


図5 調査書平均点・センター試験総点に関して
「」はキーワード，〈〉は推薦理由，
【】は任意提出書類。

5 まとめと今後の課題

本研究では、多面的・総合的評価における諸書類の有効な活用に資することを目的として、A 大学 B 学部の平成 X 年度推薦入試に、志願書類として提出された推薦書および任意提出書類を対象に、キーワード選択、推薦理由、任意提出書類の関連性等について分析を行った。その結果、次のことが示唆された。(1) 推薦理由とキーワードの関係について、クラブ活動や代表委員、生活習慣から「リーダーシップ」や「責任感」、成績や表彰・特技から「探究心」や「表現力」、学術的関心から「独創性」や「洞察力」を選択するという 3 つの見方がある。(2) 推薦理由と任意提出書類の関係については、その証左として任意提出書類が提出される傾向がある。(3) 調査書平均点について、センター試験総点よりも、代表委員経験や責任感と関連している傾向が見られる。

今後、入試における多面的・総合的評価が促進され、多様な選抜資料が活用されるようになったとき、推薦書や任意提出書類などの書類間や記載内容に、このような関連があることを理解しておくことは重要であろう。何にウエイトを置きたいか、そのためにはどのようなフォームにするのが良いかなど、得たい情報が得られる適切な書式を用意する必要がある。

本研究は、同学部において推薦入試の方法を変更した初年度の志願者だけを分析対象としており、志願者数も大きいとは言えない値である。選抜方式を切り替えた初年度における状況を把握しておくことも重要と考え本研究を行ったが、今後、複数年度のデータを蓄

積し、より多くのデータを用いて分析を行う必要があると考えられる。

また、キーワードについて、まったく選ばれなかった語もあったことから、推薦書に挙げるキーワードについて、再検討する必要がある。

注

- 1) 高等教育における課外活動の意味であり、中等教育における正課外活動（クラブ活動、部活動、課外授業等）に限定されるものではない。
- 2) 各キーワードについて段階評定を行うような回答形式を用いた場合は、本研究とは異なる相関関係が観察される可能性は十分ある。

文献

- 井上敏憲・中村裕行・前村哲史・植野美彦・立岡裕士・岡本崇宅・大塚智子 (2016). 「四国地区国立 5 大学共通のインターネット出願と多面的・総合的評価への取り組み」『平成 28 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第 11 回) 研究発表抄録集』, 23-28.
- 木村拓也 (2011). 国立大学 AO 入試における提出書類の傾向把握—モザイクプロットと多重対応分析を用いた検討—. 大学入試研究ジャーナル, 21, 171-179.
- 文部科学省 (2016a). 「高大接続システム改革会議最終報告書」.
- 文部科学省 (2016b). 「高大接続改革の進捗状況について」.
- 山本以和子 (2016). 「多面的・総合的評価入試の判定資料に関する日韓比較」『大学入試研究ジャーナル』, 26, 29-36.